

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 5 月 18 日現在

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2006 ～ 2009
課題番号： 18530237
研究課題名（和文） 金融機関の総合的な社会的責任に関する計量経済分析

研究課題名（英文） Econometric Analysis on Comprehensive Social Responsibility of Financial Intermediaries

研究代表者 内田 滋 (UCHIDA SHIGERU)
長崎大学・経済学部・教授
研究者番号： 40168696

研究成果の概要（和文）：

金融機関においても地域活動等との関わりにおけるさまざまな対社会的な貢献活動に取り組んでいる。本来業務である融資をはじめとする金融取引活動の継続性は、金融サービスの生産・供給の主体である金融機関の経営にとってのみならず地域経済社会のさまざまな経済主体にとっても不可欠ともいえる重要なインフラストラクチャーの一部となっており、それ自体が基本的なCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の遂行という意味を持っている。それに関連する諸事業におけるSRI（Socially Responsible Investment：社会的責任投資）からSF（Social Finance：ソーシャル・ファイナンス：社会的金融）や公共性・公益性の高いと考えられる金融取引案件等への対応、さらには組織としての環境レポートやCSR報告書などの作成と取組みの実施、地域文化活動等への支援、従業員のボランティア活動推奨にいたるものなど、諸種の活動や行事に参加・連携・担当実施していることが明らかにされている。また、金融機関が取引先企業等に対して有するものを含むガバナンス問題をはじめとして、リレーションシップ・バンキングと中小企業経営についても、金融機関とその経営に関する計量分析を含めて分析・考察をおこない、中小企業金融における地域経済社会への重要性とそれに対する特に地域金融機関の果たす役割の大きさが確認されたほか、企業サイドの複数行ないし多数行との取引関係と経営成果との関係等の存在についても実証分析から得られたことなど興味深い結果が見出されている。

研究成果の概要（英文）：

Financial intermediaries, banks and other financial institutions, for instance, have paid certain attention and efforts for CSR (Corporate Social Responsibility) activities including SRI (Socially Responsible Investment), SF (Social Finance) practices, ESR (Environmental and Social Responsibility) engagements and others. Many of them have also published ESR and/or CSR reports to the public as well as the disclosure reports on their management standings. Relationship banking especially between financial institutions and small and medium enterprises has been examined with the econometric analysis using relevant variables and data to find that relationship banking has positive impact on the profitability of the companies, and other results containing the existence of multi-banking relationships, and the like. Moreover CG (Corporate Governance) being one of the most vital factors for improving the overall business practices in the global economy has also been investigated with international comparative approach in relation to CSR, firm management, relationship banking, corporate culture and so forth.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合 計
2006 年度	1, 200, 000	0	1, 200, 000
2007 年度	800, 000	240, 000	1, 040, 000
2008 年度	500, 000	150, 000	650, 000
2009 年度	700, 000	210, 000	910, 000
年度			
総 計	3200, 000	600, 000	3, 800, 000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・財政学・金融論

キーワード：金融機関、C S R（社会的責任）、C G（企業統治）、企業行動、中小企業、中小企業金融、地域経済社会、地域金融

1. 研究開始当初の背景

バブル経済崩壊以降の不良債権とその処理問題やこれらとも関係する不況の長期化にともなう金融機関とその行動ないし経営のあり方は、わが国でも自己資本比率規制などをはじめとする財務制約などにより、クレジット・クランチ（貸し渋り等）問題などを提起させた。

さらに、経済社会とりわけ地域経済社会に対する金融仲介や信用創造の機能とその継続的発揮による役割のあり方等が問われていたことについても、金融機関のガバナンス問題も含めて研究上の取組みが重要と考えられた。

他方で、金融サービスの生産・供給における事業活動においても、S R I や C S R の活動内容を織り込んだり独立して展開したりする傾向が観察されるようになり、とりわけ個別金融機関においても、一般の事業会社と同様に環境問題への取り組みとしての環境経営への重視が謳われるようになっていく。そこでは、環境レポートや C S R レポートといった個別金融機関が独自に関係する報告書を作成し公表するようになってきた。

2. 研究の目的

「民間金融機関の社会的責任とは何か」について、市場行動をはじめとする産業組織面や地域金融機関ないし中小企業金融機関における企業との継続的取引関係（リレーションシップ・バンキング）、ガバナンス問題などにわたり定量的分析および定性的分析に基づいて総合的に調査分析し、預金者や地域を含む経済社会とそこでの主要なステークホルダー（利害関係者）にとって望ましい事業活動や役割のあり方への基礎的情報や示唆を提示することをねらいとする。

3. 研究の方法

当該分野に関する文献研究のほか、財務諸表等のデータを用いた計量経済分析による定量的分析ならびにフィールド・ワークにおけるヒアリング結果等を用いた定性的分析などから総合的な調査・分析をおこなった。

4. 研究成果

金融機関においても地域活動等との関わりにおけるさまざまな対社会的な貢献活動に取り組んでいる。本来の金融機関が有する信用仲介や信用創造をはじめとする金融サービスの生産・供給に関わる諸事業にあっては、民間企業部門はもとより公共部門や個人・家計部門、海外部門等、広範囲のさまざまな経済主体との取引関係において営まれており、取引相手すなわち顧客層としても概して一般事業会社のそれと大きな差異が見られる。

したがって、1990 年代後半以降において発生した金融機関特に銀行の破綻や不良債権問題等が地域経済社会ないしマクロ・レベルの景気等に及ぼしたマイナスの影響にみるまでもなく、当該産業部門の金融サービスを継続的に事業展開して提供すること自体が古典的な意味でも伝統的な社会的責任の基本をなすものであるといつてよい。

さらには、そこでも国別ないし地域別での事業展開上の差異がありうるし、法制面に基づく以外にも、経営理念や経営方針から経営文化など企業組織における内発的側面に基づくものまでの諸要因も関連するところのものであると考えられる。

主たる銀行業務である融資をはじめとす

る金融取引などでの SRI からソーシャル・ファイナンスや公共性・公益性の高いと考えられる取引案件等への対応、さらには組織としての環境白書や CSR 報告書の作成、地域文化活動等への支援、従業員のボランティア活動推奨にいたるものなど、諸種の活動や行事に金融機関が参加・実施していることが明らかにされている。

また、金融機関が取引先企業等に対して有するものを含むガバナンス問題をはじめとして、金融機関経営に関する計量経済分析を含む分析・考察をおこない、一部の国際比較を試みている。そこからは、中小企業金融における地域経済社会への重要性とそれに対する特に地域金融機関の果たす役割の大きさが確認されたほか、企業サイドの複数行ないし多数行との取引関係等の存在についても実証分析から得られるなど興味深い結果が見出された。

さらに、中小企業金融、地域金融および CSR 活動に関して、地方銀行・第二地方銀行、信用金庫、信用組合および労働金庫など各機関の活動に関するデータ分析を追加的におこなっているところである。

以上の研究成果の一部については、学会や研究会で報告されたものもあり、あらたに分析上の展開が可能となった論点などに関するものの取り纏めも含めて、今後も引き続き論文化に向けた取り組みとそれらを研究会や学会等で報告することを予定している。

なお、既に、公開された研究成果については、次のとおりである。

①については、銀行部門におけるコーポレート・ガバナンス (CG) に焦点を当てて、公開された年次報告書で報告され公開されたコンプライアンス (法令順守) 内容を SEC (証券取引委員会) 発表分とで透明性や正確性などについての比較調査をアジアの開発途上国の一つであるバングラデシュのケースを用いておこなったものであり、両者間にはいくばくかの差異が存在する結果を得ている。なお、これは、国際比較研究へのファースト・ステップとして取り組まれたものの一つである。

②では、CG がグローバル化した経済社会における企業活動を考える上で、株主とステークホルダーにとって企業価値や成果分配の面で最も重要な要因の一つとなっていることから、CG のあり方に関する判断基準について、引き続きバングラデシュのケースを調査分析したものである。ここでは、規制や監査、ステークホルダーの関与などにおいて良好なガバナンスを促進することの必要性や、ステークホルダーをしてガバナンスの概念と実践に通曉させ

ることの重要性などが指摘されている。

③においては、CSR と CFP (Corporate Financial Performance : 企業財務成果) との関係について、その文献サーベイを含む基礎的な調査研究をおこなったものである。企業サイドのインセンティブには、CSR 活動をあくまでも費用発生の要因にすぎないものであると考えたり、逆に、社会貢献により競争優位性を維持するための戦略的なものと位置づけたりと多様である。CSR と CFP との関係についても、諸先行研究例からは、分析における期間や対象、手法などによって、正の効果をもたらす結果を実証分析から得たものもあれば、負の影響や混合的な結果、中立的効果といったさまざまな結果を得ていることが見出された。

④では、地域経済社会において重要な役割を果たしている中小企業とそれへの融資取引など資金供給について、リレーションシップ・バンキングの観点から計量経済分析をおこなったものである。そこでは、全体としては企業と金融機関との継続的な取引関係であるリレーションシップ・バンキングが中小企業の収益性に正の影響をおよぼしていること等の分析結果が確認されたほか、複数行や多数行との取引関係の存在と企業の経営成果との関連等に関するいくつかのファインディングも得られた。

⑤については、重要性を増してきた企業の事業活動と環境問題ないし環境経営の視点について、特に銀行業との関連において広義の CSR を考察したものである。ここでは、環境への対応を含めた社会的責任について ESR (Environmental and Social Responsibility) model をベースにグローバル経済における銀行の ESR 水準と方針、事業活動に関して検討し、その導入と向上へのフレームワーク試論が提示されている。

⑥においては、近年、経営経済の諸分野のみならず広く内外の産業界や一般社会でも取り上げられるようになってきた CSR の便益をはじめとして、現状および将来への動向に関する文献サーベイを含めて考察したものである。ここでは、公共部門および民間企業部門におけるブランド・イメージや熟練且つ意欲ある従業員、リスク・マネジメント等との関連も含めて、持続可能な成長と発展に向けた重要性が検討されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

- ① S. Uchida, S. U. Ahmed, S. H. Khey a (2010) A Comparison of Reported and Disclosed Corporate Governance Compliance Status in the Banking Sector of Bangladesh, *Annual Review of Southeast Asian Studies*, Vol. 51, pp. 87-97
- ② S.W. Ahmed and S. Uchida, (2009) Benchmarking the State of Corporate Governance in Bangladesh, *Journal of Business and Economics*, Vol. 89, No. 3, pp. 155-168
- ③ S.W. Ahmed and S. Uchida, (2009) Corporate Social Responsibility and Financial Performance Linkage: A Preliminary Study to Draw the Conceptual Framework, *Annual Review of Southeast Asian Studies*, 25, pp. 43-51
- ④ Uchida, S. and S.W. Ahmed, (2008) Impact of Relationship Banking on Small and Medium Enterprises in Japan, 査読有 *Theoretical and Empirical Research on Financial Markets and Accounting Systems in East Asia*, Vol. 3, pp. 1-14
- ⑤ Habib, S. M. A, S.W. Ahmed and S. Uchida, (2007) Environmental and Social Responsibilities of Banks: Global Perspective, *Journal of Business and Economics*, 86-2, pp. 69-87
- ⑥ S. U. Ahmed and S. Uchida, (2007) Corporate Social Responsibility: Benefit, Current Status and Future Trend, *Journal of Business and Economics*, Vol. 86, No. 3, pp. 169-178

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 内田 滋, 地域金融機関とCSR—地域金融の諸相を考える—, 日本NPO学会, 平成 22 年 3 月 13 日, 立命館大学
- ② S.W. Ahmed and S. Uchida (2008) Impact of Relationship Banking in East

Asian Economies: Lessons for Developing Countries, The Fourth East Asia Finance and Accounting Conference, December 12, Museum of Nagasaki Prefecture

- ③ S. Uchida, (2007) Impact of Relationship Banking on Small and Medium Enterprises in Japan, The Third East Asia Finance and Accounting Conference, December 7, Nagasaki University

〔図書〕(計 1 件)

S.W. Ahmed and S. Uchida, (2009) The Role of Relationship Banking on the Performance of Firms in Bangladesh, *Advances in Development Economics*, D. R. Basu ed., World Publishing Co., Ltd. pp. 125-152

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 内田 滋 (UCHIDA SHIGERU)
長崎大学・経済学部・教授
研究者番号: 40168696

(2) 研究分担者
()

研究者番号:

(3) 連携研究者
()

研究者番号: